上之坊だより

平成30年1月19日
第78号
福山市大門町大門325
(084) 941－1031

弘法大師聖語抄（こうぼうだいしせいごしょう）

生れ生れ生れ生れて生の始めに暗く
死に死に死に死んで死の終りに冥し

古来より仏教では昼と夜が交互にめぐるように、人には前世や来世があって、生と死が繰り返されると考えられてきました。これを輪廻（りんね）と言います。

お大師様は「何度も何度も生れていながら、自分はどこから生れてきたか分からず、何度も何度も死にながら、その先に何があるか知らない」と、お説きになっていますが、昔から続く紛争や対立を見れば、いくら科学は発展しても、人の本質は何も変わっていないように思えます。

しかし、「死ねばすべて終わり」と思うのではなく、その先があると考えることができれば、今の生き方が変わるかもしれません。

来世のため陽光のある今のうちに、生きる意義や、死を受け入れることの意味を考察しようと思うようになるかもしれません。

今を精一杯生き抜く事、明るく楽しく毎日を過ごす事、これが今生（こんじょう）において必要となります。

高野山へ団参

高野山の参拝は五月十六日～十七日の予定で、料金は三万二千円程度です。

一日目京都市内の寺院に参拝、夕方高野山に上り、宿坊に一泊をして二日目に山内を回ります。

団参ですので個人で行けない所も参拝します。三月中旬に行程表ができますのでお問い合わせください。

上之坊で消防訓練

福山市東部の各地区を廻って実施している消防団の消火訓練が、久しぶりに上之坊で行われることになりました。

数十人の消防関係者が集まり、放水訓練などが行われる予定です。

一月二十八日の午前九時より開始します。訓練ですのでご心配のないようにお願いします。

真言宗の基礎知識（その三十三）
（弘法大師）

四国に霊場を開かれ、高野山に修行の道場を建立され真言宗を開かれたお大師様（弘法大師）ですが、社会に対して貢献された業績のひとつに満濃池（まんのういけ）の造成があります。

讃岐の国（今の香川県）には大きな河川が少なく、旱魃（かんばつ）の年には大変水不足になりやすい場所でした。そこで、京都から工事のために多くの工人が命令を受けて造成を始めましたが、三年たっても完成できず、小さな洪水でもたびたび堤防が決壊をしました。困り果てた地元の人たちは、天皇陛下に上奏をして、弘法大師に帰ってきてもらい工事を進めていただきたいと請われました

時の天皇、嵯峨天皇は中国で仏教以外にもいろいろな勉強をされたお大師様に造成を要請され、すぐにお大師様は五人のお弟子を伴って地元に帰り、技術の指導と適材適所に人を配置をし、郷土の人の心と力を一つにまとめ合わせて、難工事に当たられました。

この結果、わずか四十五日で造成工事を完成することができました。満濃池の造成は、お大師様の技術力もさることながら、優れた指導性を発揮した出来事でもあった訳であります。以来満濃池の堤防は一度も決壊することなく、今日に至っているのです。

四国遍路のご案内

数年前まで行っておりました四国八十八ヶ所の参拝を、今年と来年の二年で、四回に分けて廻ります。

最近では道路が随分良くなって、日帰りのお参りが主流となっていますが、あえて二泊して、四国を一国ずつ廻ります。

このご案内は二月中旬から始めますが、二十人程度を希望しております。

最初の阿波の国は、一番霊山寺から二十三番の薬王寺までです。一泊はお寺に、もう一泊は旅館に宿泊の予定です。

日ごろの生活を離れ、信仰の旅を一度されてみてはいかがでしょうか。

旅程や料金については、二月中旬に決定しますので、ぜひお問い合わせください。

平成二十九年　総代交代

曙町の関戸芳喜氏が加齢による体調変化のため総代を退任をされ、後任として徳永清氏が就任をされました。幕山地区の総代も枝廣深根夫氏が体調不良のためご退任され枝廣勇氏に交代されました。また、大谷の高橋伊三夫氏が死去され、ご退任となりました。

引野医王寺前住職御遷化

上之坊や真明寺が組寺として加入している結衆寺院のひとつである引野　医王寺の前住職　河村益信僧正が一月十二日に御遷化された。八十六歳　入退院を繰り返されての往生である。（合掌）

私が住職になった昭和五十年代は、引野や春日でお葬式があるとき、脇導師や助法でお互いの寺で随分行き来をさせていただいた。また、医王寺から高野山に上られた益信師の伯父上であった桜池院の前官様にも大学時代や結婚の時に随分お世話になった。

今まで医王寺とのご縁がずいぶんあったことを改めて思う。益信僧正、願わくは冥界より医王寺をご照覧され、護持されんことを。。

平成三十年行事予定

二月	三　日	厄除星祭り
三月	十八日	彼岸　勤め
〜二十一日		（四日間）
四月十七日		四国巡拝
〜	十九日	（三日間）
五月	十　日	真明寺例祭
五月	十六日	高野山参拝
〜	十七日	（二日間）
七月	十四日	施餓鬼法会
七月三十一日		お盆　勤め
〜八月十五日		（十六日間）
九月	十四日	彼岸　勤め
〜	十七日	（四日間）
十一月十	日	土砂　加持
十一月十四日		四国　巡拝
〜	十六日	（三日間）
十二月三一日		除夜　の鐘

土砂加持お供えご芳名

ありがとうございました。

厄除け星祭り　二月三日〔土曜〕午後一時半より

人に良い年と悪い年があるのは、その人が持って生まれた星とめぐり来る星との位置と関係によって起こると言われています。

星祭りとは年の節目である節分の頃に、その年の当たりの星を奉って、悪い位置の星の人には悪事や災難を免れるように、また良い位置の星の人には一層良くなるようにと祈る行事で、真言宗では千三百年を越える昔から続いている行事です。

上之坊では、二月三日（土）午後一時半より護摩（ごま）をたいて、節分の厄除けの大祈願をいたします。当日は豆まきや福引も予定しておりますので、ご家族やお知り合いなど、お誘いあわせてのお参りをお待ちしております。なお「おふだ」もご希望の方は前日までにお申し込みください。お一人につき三百円です。

また、厄年などで特に特別のおふだをご希望の方には七百円の金札　千五百円の小木札　三千円の大木札の三種類があります。

今年の厄年は、数え年で、男性は平成六年生まれの二十五歳　昭和五十二年生まれの四十二歳　昭和三十三年生まれの六十一歳と、女性は平成十二年生まれの十九歳　昭和三十三年生まれの三十三歳　昭和三十三年生まれの六十一歳です。特に男性の四十二歳と女性の三十三歳は大厄と言い、特に用心を要する時期です。またその前後の年を前厄後厄と言います。

詳しくは別紙をご覧ください。

平成三十年年忌表

一　周忌	平成二九年	
三　回忌	平成二八年	
七　回忌	平成二四年	
十三回忌	平成十八年	
十七回忌	平成十四年	
二五回忌	平成　六年	
三三回忌	昭和六一年	
五十回忌	昭和四四年	
百　回忌	大正　八年	

今年の該当の方は本堂正面に掲示をしております。